

詩篇 119 篇 シリーズ Part 7

119:145 私は心を尽くして呼びました。【主】よ。私に答えてください。私はあなたのおきてを守ります。119:146 私はあなたを呼びました。私をお救いください。私はあなたのごしを守ります。119:147 私は夜明け前に起きて叫び求めます。私はあなたのことばを待ち望んでいます。119:148 私の目は夜明けの見張りよりも先に目覚め、みことばに思いを潜めます。119:149 あなたの恵みによって私の声を聞いてください。【主】よ。あなたの決めておられるように、私を生かしてください。119:150 悪を追い求める者が近づきました。彼らはあなたのみおしえから遠く離れています。119:151 しかし、【主】よ。あなたは私に近くおられます。あなたの仰せはことごとくまことです。119:152 私は昔から、あなたのあかしで知っています。あなたはとこしえからこれを定めておられることを。119:153 私の悩みを顧み、私を助け出してください。私はあなたのみおしえを忘れません。119:154 私の言い分を取り上げ、私を贖ってください。みことばにしたがって、私を生かしてください。119:155 救いは悪者から遠くかけ離れています。彼らがあなたのおきてを求めないからです。119:156 あなたのあわれみは大きい。【主】よ。あなたが決めておられるように、私を生かしてください。119:157 私を迫害する者と私の敵は多い。しかし私は、あなたのごしから離れません。119:158 私は裏切る者どもを見て、彼らを忌みきらいました。彼らがあなたのみことばを守らないからです。119:159 ご覧ください。どんなに私があなたの戒めを愛しているかを。【主】よ。あなたの恵みによって、私を生かしてください。119:160 みことばのすべてはまことです。あなたの義のさばきはことごとく、とこしえに至ります。119:161 君主らは、ゆえもなく私を迫害しています。しかし私の心は、あなたのごしを恐れています。119:162 私は、大きな獲物を見つけた者のように、あなたのみことばを喜びます。119:163 私は偽りを憎み、忌みきらい、あなたのみおしえを愛しています。119:164 あなたの義のさばきのために、私は日に七度、あなたをほめたたえます。119:165 あなたのみおしえを愛する者には豊かな平和があり、つまずきがありません。119:166 私はあなたの救いを待ち望んでいます。【主】よ。私はあなたの仰せを行っています。119:167 私のたましいはあなたのごしを守っています。しかも、限りなくそれを愛しています。119:168 私はあなたの戒めと、ごしを守っています。私の道はすべて、あなたの御前にあるからです。119:169 私の叫びが御前に近づきますように。【主】よ。みことばのとおり、私に悟りを与えてください。119:170 私の切なる願いが御前に届きますように。みことばのとおり私を救い出してください。119:171 私のくちびるに賛美がわきあふれるようにしてください。あなたが私にみおきてを教えてください。119:172 私の舌はあなたのみことばを歌うようにしてください。あなたの仰せはことごとく正しいから。119:173 あなたの御手が私の助けとなりますように。私はあなたの戒めを選びました。119:174 私はあなたの救いを慕っています。【主】よ。あなたのみおしえは私の喜びです。119:175 私のたましいが生き、あなたをほめたたえますように。そしてあなたのさばきが私の助けとなりますように。119:176 私は、滅びる羊のように、迷い出ました。どうかあなたのしもべを捜し求めてください。私はあなたの仰せを忘れません。

はじめに

この詩篇 119 篇シリーズも今日が最終回です。

詩篇についての説教を録画して OIC の会衆の皆さんにお届けするのは素晴らしい特権でした。この詩篇を学ぶことは私のたましいにも大きな祝福を与えました。

皆さんも、この詩篇を通して霊的に励まされ、示されたことがあれば嬉しいです。

私は最近、私の出生地である南アフリカで 3 週間を過ごし、先日帰国しました。南アフリカは私が生まれてから 7 歳まで過ごした場所です。

最大の祝福の一つは、私が 1961 年まで日曜学校に通っていた教会を訪問できたことです。(スクリーンに教会の写真が表示されます)

母が最近、私が幼い頃に通っていた日曜学校のリーダーだった A・J・リーク氏のサイン入りの日曜学校修了証をくれました。リーク氏は長老となり、その後牧師となるためにアフリカの別の国に移られたそうです。

リーク氏はきっと私のために祈ってくれていたことでしょう。それに感謝しています。

私たちがその教会に行った日、会衆のある女性が礼拝後に私に会いに来て、何年も前にリーク氏が彼女の結婚式を執り行ったことを教えてくれ、また私が彼の祈りに感謝できるようになったことに本当に励まされたと言ってくれました。

この話をするのは、私たちが祈る人となり、特に子どもたちや若い人たちのために祈るための励ましとするためです。

次のヘブライ語の文字は、最初のセクションの先頭にある「Qoph(コフ)」です。

このセクションはすべて祈りに関連しています。

1. ヘブライ文字 - Qoph(コフ) - 正しく祈るための助けと導きを与える (145-152 節)

詩篇 119 篇の著者はこの詩篇全体を通して祈っていますが、この 145-152 節では、特に祈りに焦点をあてています。

著者は、祈りについて重要なことを 4 つ教えています。

まず、祈るときに心をこめて祈らなければならないということです(145-146 節)。

1678 年にイギリスの獄中で「天路歷程」を書いた有名なクリスチャン、ジョン・バニヤンはこのように言っています。「祈りにおいては、心なく言葉を並べるよりも、言葉無くとも心を込める方が良い。」

ジョン・バニヤンが言いたかったのは、祈りにおいて神の御前に立つ私たちの心は、100%誠実でなければならないということです。

私たちの心は、神の心と一致し、同調しているべきです。

私たちの祈りは、聖霊の火によって燃え上がるものでなければなりません。

これは、私たちが深く親密に神と関わるときに起こることです。

あるクリスチャンの作家はこのように表現しています。

「心の献身が私たちの祈りに火をつけ、神に願いをささげることができるようになるのです。」

聖書の翻訳によっては、著者が従順を約束することで自分の祈りに答えてくれるように神を説得しようとしているように聞こえます。

しかし、ヘブライ語の原文では、英語の NKJV 訳にも反映されているように、神がどのように彼の祈りに答えるかにかかわらず、著者が神に服従することに身を捧げていることがわかります。

心をこめて祈ることは、イエスの教えられた見本に従うことです。

「御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。」

(主の祈り-マタイによる福音書 6 章 10 節)。

このように祈れるようにするには、まず自分自身のために祈る必要があります。私たちの罪が赦され、聖霊の働きによって、神が私たちにきよい心を与えてくださるように祈る必要があるのです。

ダビデは詩篇 51:10 で「51:10 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。」と述べています。

祈る前からでも聖霊が私たちの心を砕かれることは、決して悪いことではありません。

次に著者が述べているのは、神の言葉に従い絶えず祈ったということです。

(147-148 節)

この節では、著者は朝早くから祈り、夜も祈ったと記されています。彼はまた、神の御言葉に従い、祈りました。

絶えず祈るということは、一日中祈り続けて実質的に他のことは何もできない、ということではありません。

それは、一日中いつでも祈る心構えを持ち、そうすべき時にはいつでも立ち止まって祈ることです。

もちろん、早朝や、夜、仕事の後に長時間祈ることは良いことですが、日中いつでも立ち止まって祈ることができます。

祈りと神の御言葉を学ぶことをバランスよく行わなければなりません。

「もし祈らずに聖書を学ぶだけなら、光は与えられても、熱を得ない」と言った人がいます。しかし、もし聖書を学ばずに祈るだけなら、知識なしに熱意を持つこともあり、それは危険なことです。

サムエルは、サムエル記上 12:23 で、神の御言葉と祈りの両方を強調しています。

イエスもまた、ヨハネ 15:7 で、祈りと神の御言葉を学ぶ必要性を強調されました。

ヨハネ「15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」

また、初代教会の霊的指導者たちは、祈りと神の御言葉に身を捧げました。

(使徒言行録 6:4)

神の御言葉に心を潜めるとき、神は私たちに語りかけてくださいます。

祈っているとき、私たちは神に語りかけているのです。

均整の取れた神の子どもとなるためには、教えととりなしの両方が必要です。

このセクションの 3 つ目の教えは、愛のゆえに祈ることです(149 節)。

この節は、主への愛と主の戒めへの従順の両方を兼ね備えています。

何かはどうしても必要なときに仕方なく神に助けを求める緊急事態のように祈りを捉えてはいけません。

祈りはただ求めるだけでなく、愛することでもあるのです。

もし私たちが神の御言葉を愛するなら、その御言葉を持つ神も愛さなければなりません。心の表現として、祈りの中で神への純粋な愛を表現する必要があります。

もし何かを求めるときだけ神に祈るのなら、その祈りへの態度は未熟です。非常にレベルの低い祈りと言えます。

私たちは、子どものようにいつも欲しがることから離れ、祈りの中でより成熟した関係を目指さなければなりません。これには、何も求めず、心から神を愛することが必要です。

マタイ 6:33 には、まず神の国と神の義を求めなさい、そうすれば、神は私たちのすべての必要を満たしてください、と書いてあります。

このセクションの最後の教えは、目を見張って祈りなさい、です(150-152 節)

著者は祈りながら、自分の敵が近づいてくるのを見て、神に助けを求めました。

「見張り、祈れ」というおなじみの言葉は、ネヘミヤがユダヤ人を率いてエルサレムの城壁を再建し、城門を修復したときに遡ります。

神の敵は聖なる都が再建されることを望まなかったので、様々な方法で再建を阻止しようとしていました。

彼らは、恐れ、欺き、妨害、嘲笑によって、神の御業の進行を止めようとしていました。

ネヘミヤはこのような敵の行動に対してどのように身を守ったのでしょうか。

ネヘミヤ 4:9 「4:9 しかし私たちは、私たちの神に祈り、彼ら(敵)に備えて日夜見張りを置いた。」

新約聖書を通して、私たちは「見張り、祈る」ように教えられています。

イエス、マルコ、パウロ、ペテロは皆、「見張って祈れ」と言いました。

(マタイ 26:41、マルコ 13:13、コロサイ 4:2 (パウロ) 、1 ペテロ 4:7(ペテロ))

見張り、祈るとは、油断なく、知性を持ち注意を払って祈ることです。

私たちは霊的な戦いの中の兵士であることを決して忘れてはなりません。任務中に眠ってはならないのです。

次のヘブライ語のアルファベットは：「Resh(レシュ)」-旅路のための力(153-160)

詩篇の終わりに近づくにつれ、著者が助けを求める声がより切実になっていることにお気づきでしょうか。

ヘブライ語のアルファベットは終わろうとしています、著者の試練は続きます。

ですから、彼は主からの継続的な助けを必要としていたのです。

この詩篇の最後の 3 つの節はすべて迫害と試練について述べています。

しかし、著者はこのような困難な時にも、なお主を信頼していました。

クリスチャン生活はイスラエルのようなものです。

そこは 山と谷の地です(申命記 11:11)。

クリスチャン生活では、谷を経験せずに山の頂上を経験することはできません。

この部分のキーワードは「私を生かしてください」です。

「生かす」とは、いのちを与え、持ち上げ、継続させるということです。

このセクションで著者は、生かしてくださいという祈りに神が答えてくださる理由を 3 つ挙げています。

まず著者は「私を生かしてください。あなたは私の贖い主ですから」 (153-155 節) と言っています。

「贖い」という単語は、買い戻すという意味です。ルツ記には、買い戻しの権利のある人が、困っている一家を助けたことが描かれています。ボアズがルツを救い出す物語です。

ユダヤ人に対するこの教えは、レビ記 25:23-34 節に教えられています。

もちろん、最も重要な贖い主は、イエス・キリストです。イエスは人類の中にお入りになり、私たちの贖い主とされました。私たちを罪、死、そしてよみから贖うために、代価を支払われました。イエスは神の御座の前で私たちの代わりとされるのです。(ヨハネ第一 2:1-2)

試練や苦難の中で、神の御子が私たちのために祈り、私たちの祈りを聞き、私たちの必要を満たしてくださると知ることは、慰めです。

次に、著者は「私を生かしてください。あなたはあわれみ深い方ですから」と書いています(156-158 節)。

もし私たちが自分の価値に基づいて祈ったなら、神は決して私たちの祈りに答えることはできませんでした。

しかし、私たちが祈るとき、私たちは御子イエス・キリストの名によって神のもとへ行くのです。

(ヨハネ 14:14、15:16)

また、私たちは聖霊の助けによって、神のもとに來ます。(エペソ 2:18、ローマ 8:26-27)。

神はその恵みにおいて、私たちが受けるに値しないものを与えてくださいます。神の慈悲において、神は私たちが受けるにふさわしいものを与えられないのです。

神の御座は、恵みの御座です。(ヘブル 4:16)

著者は、不信心な者の生き方に嫌悪感を抱いていましたが、彼らの悪い見本を見ても、自分の信念は変わりませんでした。

ここには、私たちが周りの世界に影響されることなく、神と神の御言葉に身を捧げ続けるようにとの警告があります。

3つ目は、「生かしてください、神の御言葉は信頼に値しますから」-(159-160 節)

著者は、神の御言葉が真理であるだけでなく、信頼できることも知っていました。

真理を知ることと、真理を信頼することは、それぞれ別のことです。

真理を信頼するとは、その真理を日々の生活に実践的に適用するために一步踏み出すことです。著者は、神が自分を完全に生かしてくださると信頼しました。それは、神がそうできる方であると頭で信じるだけでなく、心で信じ、決してあきらめることがなかったからです。

次のヘブライ語文字は Shin(シン)-「均整の取れた者への祝福」です(161-168 節)。

詩編 119 編を学ぶと、著者は均整の取れた信仰生活を実践していることに気づかされます。このセクションでその性質がはっきりと見られます。

クリスチャン生活の均整を保つためには、神のコインの両面を同等に信用しなければなりません。コインには2つの面がありますが、それは同じコインです。

均整の取れたクリスチャンになるためには、神のご計画の全体において均整を保つ必要があります。これは、聖書全体、特に神の民に対する神の目的、そして神の地であるイスラエルの地を知り、理解し、尊重することを意味します。

著者は、4つの方法でその均整のとれた性質を実行しました。

まず著者は神を敬い、喜びました(161-162 節)。

このように神と神の御言葉に対して均整の取れた様子が 161-162 節で伺えます。著者は迫害者を恐れることなく、神の御言葉に畏敬の念を抱いて立っていました。**神に対する健全な恐れがあれば、他の誰も恐れる必要はないのです。**著者は神の御言葉を敬い、同時に神の御言葉を喜びました。敵は著者から神に対する喜びと敬意を奪おうとしましたが、著者は神の御言葉に大きな富を見出し、神がなさろうとしていることを喜びました。私たちがそのような均整のとれたクリスチャン生活を送る必要があるのです。

次に、著者は愛と憎しみについて語っています(163 節)。この詩篇を通して、著者は悪を憎みながらも、神と神の御言葉を愛していることがわかります。特に、嘘について言及されています。ヨハネの黙示録 21:27 に、嘘を愛し、実践する者は、天の都に入れず、永遠に神の前から閉ざされると書かれています。

3 つ目の均整は「賛美と祈り」です(164-165 節)。献身的なユダヤ人信者は、一日に三回、神を賛美し、祈りました。しかし、著者はそれを超えて、一日に 7 回神を礼拝しています。ヘブライ語訳では、「しばしば、何度も、求められる以上に」となっています。歌で神を礼拝し賛美することは良いことですが、祈り生活とのバランスも必要です。クリスチャン生活において、歌や賛美は私たちを持ち上げてくれますが、祈りはしばしば私たちを謙虚にさせます。私たちが成熟し、均整のとれた信者になるためには、その両方が必要なのです。

このセクションの最後は「歩み、待つ」です(166-168 節)。著者は、救いを忍耐強く待ちながら、同時に神の御言葉に従い、信頼する忠実な生活を歩んでいました。ローマ 8:18-25 「8:18 今の時のいろいろの苦しきは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。8:19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。8:20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。8:22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。8:23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。8:24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。8:25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。」さて、ヘブライ語のアルファベットの最後の文字、この詩篇の最後の部分です。

ヘブライ語の最後の文字:Tau(タウ)-「私の祈りを聞いてください」 (169-176 節) 174 節を除いて、このセクションの各節は、主への祈りです。これらの祈りの焦点は、私たちが神を信頼するときに、神が私たちの必要を満たしてくださるといふ素晴らしい神の御力です。

このセクションでは、著者は自分の主だった4つの必要を述べ、最後に非常に重要な点を述べて詩篇を終えます。

あなたの御言葉を必要としています。(169-172 節)

イエスとどんなに長い時間共に歩もうとも、神の御言葉を必要とする気持ちを決してなくしてはいけません。

そこにはいつも学ぶべき新しいことがありますし、すでに知っている真理から新しい応用を見出すこともよくあります。

しかし、著者は神の御言葉をただ自分のためだけに取っておいたわけではありません。172 節では、神の御言葉について他者に話すことについて触れています。

確かに私たちは自分自身のために神の御言葉を必要としますが、他者に伝えることも必要なのです。

南アフリカ滞在中のとき、神の御言葉と神の恵みを伝える最大のチャンスは、体調が悪くときに訪れました。私は5日間、慢性的な下痢に悩まされていました。

ウェンディと私は、南アフリカのブライ（イギリスの B.B.Q.と同じもので、野外で焼いた肉などを食べて楽しむもの）に招待されました。

私は何も食べられなかったのですが、Airbnb(民泊)のホストファミリーは私たちを大家族のブライに招待してくれたのです。広い場所にみんなで座ると、若い人がたくさんいました。ホストファミリーの娘さんが、「どうして南アフリカのホィックにいるのですか？きっかけが知りたいです。」と言いました。

私は、「今簡単に説明しますが、全部知りたいのなら、今日話すこと以外も全部分かる本もありますよ」と言いました。

そして10~15分くらい話したところ、2人の方が私の本を読みたいと言ってくれました。私は体調が悪かったので、本当にこのファミリー・ブライに行きたくなかったのですが、自分の証を伝える素晴らしい機会を与えられることとなり行ってよかったと思いました。

たとえ気分が乗らないときでも、頑張って自分の証をする価値があるのです。

あなたの御手を必要としています - (173 節)

173 節で著者は「あなたの御手が私の助けとなりますように」と言っています。

私たちは、神が霊であることを知っています（ヨハネ 4:24）。ですから、神は手足のある肉体をお持ちではありません。

神が私たちにご自分を明らかにするために、神は私たちを馴染みのあるものを用いられます。人間の用語を用いてご自分を表現されるのです。

「主の御手」は詩篇 119 篇に一度だけ出てきますが、それがこの節です。

しかし、「主の御手」は詩篇全体の中では何度も言及されています。

イエスも神の御手について言及されています。

ヨハネ 10:28-29 「10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」

もしイエスを知り、愛しているなら、神の御手はあなたの人生の上であり、あなたを守り、あなたの世話をし、あなたの欲求ではなく、あなたの必要を満たすためにあることを確信してください。

私たちは時々、必要のないものを欲しがり、欲しいと思っていないものを必要とするものです。

神は愛の御手で私たちにとって何が最善かを決定されます。

あなたの救いを必要としています (174 節)

著者の場合「救い」とは、自分を脅かす敵からの解放を意味しました。

私たちの究極の救いは、イエス・キリストが再臨して、すべての被造物を罪の束縛から解放することですが、私たちはこの世でたくさんの必要を抱えて、天に向かって旅をしています。神はこの旅路における私たちの必要を助けてくださるでしょう。

あなたの助けを必要としています (175 節)

ヘブライ語で、助けを意味して神の裁きを求める時、私たちの生活に影響を与えているように、神の摂理が世に働くことを指すことがあります。

神は常に御言葉を尊重されます。ですから、神は常に、聖書の中で明らかにされている御心に従って行動されます。

あるクリスチャンの作家がこのように言っています「信者の人生に思いがけない出来事など無い。約束されたことばかりだ。」

天の御父は私たちを見守ってくださり、私たちに約束を与え、それを守ってくださるのです。このことに励ましを受けましょう。

最後に、著者は自分自身を「しもべ」と宣言しています。(176 節)

176 節で著者は自分の弱さを主張しつつも、自分が神のしもべであることを忘れてはいません。マリアは、自分の胎に救い主が宿っていることに思いをはせたとき、自分を「はしため」と言いました。(ルカ 1:48)

私たちが何を持っていようと、どこに行こうと、何をしようと、私たちはイエスのしもべに過ぎないのです。

私たちの仕事は、イエスに仕え、イエスに従うことです。そしてもちろん、神は私たちの信仰と信頼を尊ばれます。

アーメン